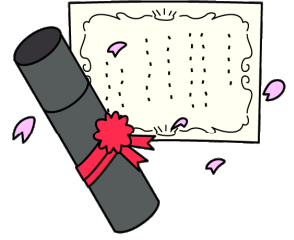


## 人が想像できることは、人が必ず実現できる

2023.3.24 校長 西谷 秀幸

本日は、第65回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、板橋区区民文化部長 林 栄喜様、区議会議員 坂本 あずまお様をはじめ、多数の御来賓の皆様にご臨席を賜り、ありがとうございました。高いところから誠に失礼ですが、心より御礼を申し上げます。[一礼]



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

小学校生活最後の今日は、「壁」について、お話をします。といっても、家とか教室とかにある「壁」のことではありません。「そんなの無理だ」「そんなことできるわけない」といった「目に見えない壁」のことです。

この「目に見えない壁」は、大きく2種類あると思います。1つは、「世の中の常識」という壁、そして、もう1つは、自分自身で無理だと諦めしまう「心の壁」です。

おととい、WBCで侍ジャパンが14年ぶりに世界一になり、日本中が盛り上がりましたね。ヌートバー選手、村上選手、そして、大谷翔平選手など、たくさんの選手が活躍しました。大谷選手は、ピッチャーとバッターの二刀流の選手として、世界で最もレベルの高いアメリカのメジャーリーグで昨シーズン、MVPを獲得し、そして、今回のWBCでもMVPを獲得しました。

高校生のときから、プロの注目の的だった大谷選手は、高校卒業後、日本のプロ野球には行かず、アメリカのメジャーリーグに行くことを表明しました。その意思是強く、日本の多くの球団は獲得するのを諦めました。

同時に、ピッチャーとしてもバッターとしても超一流だった大谷選手は、プロではピッチャーでいくのか、バッターでいくのか、世間が勝手に論争を始めました。というのも、あのイチロー選手でさえ、バッターだけに専念したくらい、プロの世界では、「ピッチャーとバッターの両方に取り組むことは、あり得ない」というのがプロ野球における「世の中の常識」だったのです。

しかし、今回の侍ジャパンの監督で、当時、北海道日本ハムファイターズの監督だった栗山監督は、大谷選手をドラフトで1位に指名し、「ピッチャーとバッターの二刀流で育てる」と大谷選手に提案します。その方針に魅力を感じた大谷選手は、日本のプロ野球からスタートすることを選びました。

そんな大谷選手と栗山監督に、世の中の人たちは、どんな反応をしたと思いますか？「そんなことできるわけがない」「大谷選手も栗山監督もプロをなめている」…。まさに「プロ野球界の常識」という壁です。しかし、大谷選手は、そんな「世の中の常識」を見事にくつがえし、二刀流で結果を出して、プロ6年目の24歳のときに、アメリカのメジャーリーグに挑戦しました。

すると、今度は「メジャーリーグの常識」という壁が立ちただけです。「確かに、日本では二刀流で成功したかもしれないけど、世界で最もレベルの高いメジャーリーグでは通用するわけがない…。」

大谷選手は獲得したいけど、二刀流は認められない…そんなチームが多い中、大谷選手は、二刀流を認めてくれたエンゼルスというチームに入団しました。そして、メジャーリーグでも二刀流で結果を出して、「メジャーリーグの常識」という壁を打ち壊しました。

実は、大谷選手は「二刀流」という言葉を自分で使わないのだそうです。なぜなら、大谷選手にとって「野球は、投げて打つのは当たり前」であり、プロだから、メジャーリーグだから「できるわけがない」とか「諦める」といった「心の壁」を作らず、「やってみなければ分からない」と常にチャレンジするからです。

もちろん、大谷選手が、高い意識をもって、目標を達成しようと努力し続けていることは、いうまでもありません。

例えば、高校1年生のときは、このような「目標達成シート」を作り、「プロ野球で8球団からドラフト1位指名を受ける」という目標に向かって何をしなければならないのか、書き出しました。

そして、目標を実現させるために、「体づくり」「コントロール」「スピード160km/h」「変化球」などの8つのことが必要と考え、その8つのことについて、さらに、それぞれ8個ずつ、合わせて、64個の課題を書き、1つ1つをクリアしていくことによって、「世の中の常識」という壁を打ち破っていったのです。

ここで注目してほしいのは、大谷選手は、目標を達成させるためには、「運」や「人間性」なども大事と考え、「運」を引き寄せるために「挨拶」や「ゴミ拾い」をし、「人間性」を高めるために「思いやり」や「感謝」を忘れず、「愛される人間になる」などともこのシートに書いていることです。

さて、これからの人生、皆さんの前には、幾度となく壁が立ちはだかることでしょう。でも、それは、本当に「壁」なのでしょうか？

もしかしたら、それは、やりもしないのに、自分で「無理」と決めつけて、自ら作り出した「心の壁」かもしれません。もしくは、いつ、どこで、誰が作ったのか分からない「世の中の常識」という壁かもしれません。

自分の「心の壁」は、自ら取り除こう！そして、「世の中の常識」という壁なんて、打ち壊して変えてしまおう！

これからの時代、新時代を作るのは、間違いなくここにいる皆さんです。

人が想像できることは、人が必ず実現できる
----------------------

これが、皆さんに贈る私の最後の言葉です。

終わりにになりましたが、保護者の皆様、本日はお子様の御卒業、誠にありがとうございます。また、長い間、本校の教育に御協力をいただき、ありがとうございました。

皆様お一人お一人が、12年間、大事に育てられてきた「大切な大切なお子さん」を本日、確かにお返しいたします。今後とも卒業生の母校として支えてくださいますよう、お願い申し上げます。[一礼]

卒業生の皆さん。今日から、新たな第一歩が始まります。ここにいる皆さん一人一人が輝かしい未来を、自らの力で切り拓いていくのを心から応援しています。

以上で、私の式辞といたします。

令和5年3月24日

東京都板橋区立成増ヶ丘小学校長 西谷 秀幸